

視察成果報告書

令和 8 年 1 0 月 1 3 日

犬 山 市 議 会
議 長 大 沢 秀 教 様

議 員 名 小 川 清 美

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 視察年月日	令和 8 年 1 0 月 9 日 (金)
(2) 視 察 地	わくわく都民農園小金井
(3) 視察の種類	常任委員会行政視察研修 (建設経済委員会)
(4) 視察成果 (視察地ごとに記入)	対応；一般社団法人小金井市観光まちおこし協会 (2016年設立) 事務局 千葉幸二 氏 山田茉由子 氏 (1) 農園の構成 2022年3月開園 ※生産緑地であっても、使用貸借が可能となった。 共菜園…保育園 3 園の幼児に農業への関心を醸成の場 こども農園…都内小学生が週 1 回過ごすことができる「畑の居場所」で、種まきから収穫までを体験する学びの場 福祉農園…農業を通じて、福祉の連携を模索・実施する場。地元の障がい者支援継続 B 型事業所と連携運営。視察時は大学生が除草作業を実施中であった。 セミナー農園…都内在住 50 歳以上のシニア層を対処としたセミナー付き貸農園。年額使用料は 60,000 円 + 税であるが募集人数を越える応募がある。 1 区画は 2 m × 1 0 m 全 50 区画 地域農園…商店街や町内会、福祉事業所、農家などが集まり、農地を活用した多世代・異文化交流を育む場の 5 つの農園から構成されている。



	(2) 農園の概要 ・最寄り駅（JR線武蔵小金井）から徒歩5分程度という立地 ・規模 5つの農園エリアの合計面積 1,400平方メートル その他供用通路、農業用機材倉庫（ビニールハウス108㎡） また、隣接地ということで一体的に食堂が建っているが、食堂棟は農業施設外建築物のため、敷地を分筆し農地転用 (3)その他 ノビルやシロツメクサなどの野草を防災植物としていざという時に食べるという考えや日本防災植物協会という団体が存在することを興味深く訊くことができた。
(5) 犬山市に対する提言	○ 農園を単なる畑作地として貸し出すのではなく、農福連携、まちづくり（まちおこし）や食育と言った観点を取り入れて運営されている点は、当市としても大いに参考になると考える。 ○ 翻って、当市の市民菜園を考えた場合、こういった観点も無く、農業者への転換や農業への理解度向上もあまり見込めないことから、市として関与する必要はないと考える。そして、事業継続ならば、庁内での横の連携をもっと図る必要がある。 ○事業として必要ならば、特定の場所を市で確保するのではなく、マッチングアプリ（常滑農業展の報告書に掲載）の導入をすべきと考える。